此

(平成二十八年度寮歌

八紘辿りて九逵を巡らん十色の明日へといざやいざいっちんと、きゅうき、めくといる、あり四の五の言わずも六華で過ごさば北斗七星背を照らすい。こ、いりのでは、というは、というは、というで、集いし青二才共に三途の川は未だ遠くいちょう。こと、まちにはども、さんず、かお、ましたま 

大きなる理想抱え来て 北き の都に若人が

飽くまで語り前途早期ける月夜に継がおり 寮清ければ我等住まぬタテッシ゚ル り前途見遣れ れる人情

把

表等の寮得たるが如く 我等の寮得たるが如く 我等の寮得たるが如く を張れば平らぐ濤燦然と

> 歌い響かす己が大志 で 相撃 <sup>きい</sup> つ竜と虎

琢<sup>た</sup>く 磨ま 我等と寮となれこの日々よ 咲きつ根張り胸 君と此処 処寮を以て 院を 反<sup>そ</sup> ñ

小松遼貴君 作歌・作曲